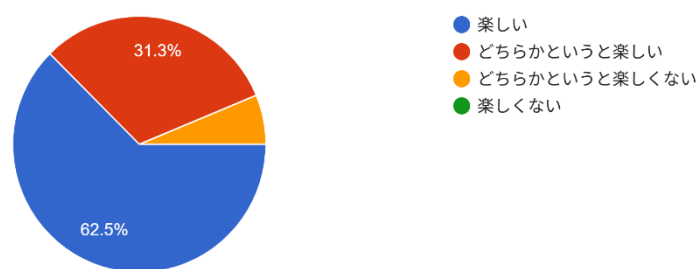


(2) 教員のアンケート分析の結果

質問1 生活科・総合的な学習の時間の授業は、楽しく行えていますか。



○94%の先生方が「生活・総合の授業が楽しい」と回答している。

●材の検討や教材研究を円滑に行えるようにしたい。共有の場もあるとよい。

【分析から改善に向けての手立て⇒次年度の生活・総合に向けて】

- ①計画や話し合いの時間を研修の時間で設定すること(年度当初)⇒前年度の引継ぎや年計を生かす、生活・総合授業づくりのマニュアル作成をしていきたい
- ②材の検討をウェビングで綿密にすること⇒拡散し可能性の幅が広いものを選ぶ
- ③地域との連携がなるべく円滑に行えるようアプローチしていくこと⇒継続的なつながりを大切にする

質問2 研究での成果

○授業づくりについて教職員間で話し合いながら進められた。子供たちの見取りも共有でき、生活科・総合的な学習の時間の教科観・授業観を明らかにすることができた。

○授業構想や計画を事前に立てておくことで、見通しをもって授業に臨むことができた。そして、子供たちから「やりたい!」という前向きな声が聞こえたり、何をしたいのか少しずつ言葉で表現したりできるような充実した授業をすることができた。

○教師も楽しみながら授業ができ、子供たちが自分で決めたことを主体的にでき、自由度が広がった授業が展開することができた。

○振り返りの時間を設定することで、子供たちの「!(気付き)」や「?(疑問)」が生まれ、解決したい問いが多く生み出された。

○生活科・総合的な時間で多くの人達とのつながりができ、授業づくりの基盤が整ってきた。

質問3 研究での課題

●事前の準備や、教材研究をする時間を作り出す工夫が今後必要である。

●それぞれの児童の思考を見取るのが難しいため、振り返りなどから子供たちの考えていることを教師が把握しながら授業をデザインしていく必要がある。

●必要感をもっている児童ともっていない児童に差があるため、その差を埋めるための手立てが必要である。

●今後、どの教職員も授業をスムーズに進められるよう毎年の計画のブラッシュアップは必要である。

【分析から改善に向けての手立て⇒次年度の生活・総合に向けて】

- ①事前の準備や、教材研究をする時間を作り出す工夫が今後必要である。⇒校内研修の時間や学年会を有効に使い、授業構想から実践に至るまでの計画を立てるための時間を設けること
- ②児童の思考はそれぞれで見取るのが難しいため、どのように見取っていけばよいのか、今後も検討が必要

要である。→振り返りや座席表の活用を継続して行っていくこと

- ③必要感をもっている児童ともっていない児童に差があるため、その差を埋めるための手立てが必要である。

→児童にとって「意味があるもの（有意味）」な学習となるよう材との出会わせ方や専門家との関わり、今している学習がどのようなことに役立つのかに気付かせるしかけを施すこと

- ④今後、どの教職員も授業をスムーズに進められよう毎年のブラッシュアップは必要だと感じている。

→単元配列表や年間指導計画の更新を毎年すること

質問4 その他、「校内研修が〇〇したら、楽しくなる!」、「生活科・総合的な学習の時間の時間が楽しくなる!」というアイデアや授業でこうしていますという手立てがありましたら、ご自由にお書きください。

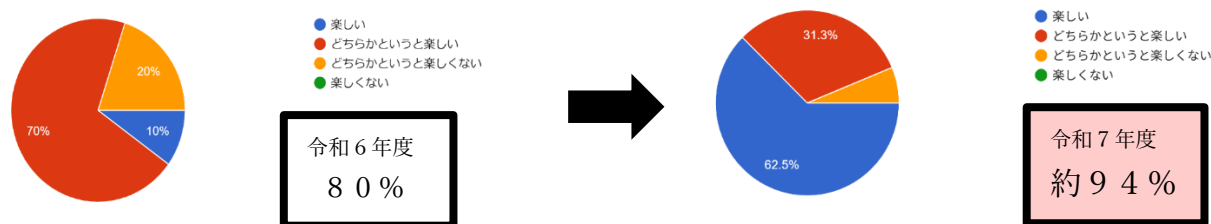
- ・問いかけなど教師としての役割を考えて指導している、子供たちの思いや願いを大切にしている。
- ・時間の中でやることを精選し、本当に必要なものを磨くようにしている。
- ・ブロックを超えた先生方との関わりをもち、異学年や地域との交流を増やす。
- ・子供たちから「やりたい!」を引き出すために、体験的活動を多く盛り込んでいる。
- ・必要感を持たせた上で自己の学習を調整する力を養うことで、自己の変容に気づき、楽しくなるようくふうしている。
- ・子どもが主体的に行動できるよう学んでいる。校内研修は、教員の本当にやりたいことを事前に調査して決めるのもいいなと思った。
- ・子供たちから生まれたつぶやきや振り返りで出た気づきから授業を広げられるようにしたい。

【分析から改善に向けての手立て→次年度の生活・総合に向けて】

- ①研修内容の精選と充実→教員にアンケートやインタビューなどを実施し、本当に必要なものから優先して計画的な研修を行う。今後も研修日より掲示物で生活・総合の授業づくりのノウハウを発信し共有したり、話し合っ本校のスタイルに合わせて考えたりすること
- ②探究学習の概念で重要な柱となっている「ヒト・モノ・コト」を活かす→探究のプロセスの確認をしたり、事前にフィールドワークをしたりしながら引き続き教材研究を重ねること
- ③児童の姿をよくみて、教職員間で語り合う風土づくり→「長い目（時間軸で成長を継続的に見る視点）・広い目（子供の言動や作品を関連付けて全体像を捉える視点）・基本の目（生活や学習の根本を見る視点）・今の目」を大切にすること
- ④児童を真ん中においた生活・総合の授業づくり→児童の思いから始まり、「何をどのように学び、何ができるようになるのか」学びの地図を描きながら、実現するものにすること

<昨年度との比較から分かったこと>

生活科・総合的な学習の時間の授業は、楽しく行えていますか。（教員のアンケート 質問1より）



昨年度と比べると、児童も教員も生活・総合の授業づくりを楽しんでいると思って実践することができていたことが分かった。児童アンケートでは「楽しい」「どちらかというと楽しい」に回答していた児童が、令和6年度の約96%から令和7年度は約98%と約2%高くなっていた。教員が「楽しい」「どちらかと

いうと楽しい」に回答している割合は、上記の円グラフにある通り令和6年度と比較して約14%も「楽しい」の割合が高くなった。高くなった理由として、生活・総合の授業を目の前の児童の思いを汲み授業をどのように創っていくか教職員間で事前に話し合ったり、研究をする中で発問の仕方・板書の意味などを考えて確立していったりできたからではないかと考察する。授業づくりのベースがあり、そこから学級の児童の実態に合わせた創意工夫を凝らしていくことで、児童の主体性が生まれて夢中になっていくような流れができることが分かってきた。また、教員が児童の姿を発言・つぶやき・行動・記述・作品から見取っていくことで、本時あるいは単元という括りでどのような変容や成長などがあったのかを分析することができる。それが、後々の発問や手立てにつながっていく。

一方で、児童のアンケートから特に「気づきを見付けること」や「課題設定」、「課題に必要感・切実感をもつ」という部分がなかなか難しいようである。そこで、上記の解決策にもある通り、児童間での共有をする時間の設定、児童に目的意識や相手意識をしっかりとめさせる、児童の体験から幅を広げ選択させるなどを取り入れながら授業づくりをすることで気づきの質を高めたり、課題に必要感・切実感をもたせたりすることができると思う。

これからも生活・総合の授業について教職員間で語り合い「誰もが実践できるような授業」や「オリジナルの授業スタイル」の探究の積み重ねが必要である。基本的に押さえる所や目指す所の共通理解を土台に、毎年変わる児童と創る授業は（児童の）「生きる力」の材となっていく。